

# 花子

森鷗外

青空文庫



Auguste 《オオギュスト》 Rodin 《ロダン》 は為事場しごとばへ出て来た。

広い間ま一ぱいに朝日が差し込んでゐる。この [Hotel] 《オテル》 Biron 《ビロン》 というのは、もと或る富豪の作った、贅ぜいた沢くな建物であるが、ついこの間あいだまで聖心派の尼寺になっていた。Faubourg 《フオオブウル》 Saint 《サン》 - Germainジェルメン の娘子供を集めて [Sacre'] 《サクレエ》 - Coeurキヨオル の尼達まが、この間まで讚美歌を歌わせていたのであろう。

巢ひなの内の雛ひなが親鳥の来るのを見つけたように、一列ならに并んだ娘達なが桃色の脣くちびるを開いて歌ったことであらう。

その賑にぎやかな声は今では聞えない。

しかしそれと違つた賑やかさがこの間を領している。或る別様の生活がこの間を領している。それは声の無い生活である。声は無いが、強烈な、鍊れんちゆう 稠ちゆう せられた、顫せんどう 動している、別様の生活である。

幾つかの台の上に、幾つかの礬ばんどかたまり土の塊がある。又外ほかの台の上にはごつごつした大理石の塊もある。日光の下に種々の植物が華さくように、同時に幾つかの為事しごとを始めて、かわるがわる気の向いたのに手を着ける習慣になつているので、幾つかの作品が後おくれたり先だつたりして、この人の手の下に、自然のように生長して行くのである。この人は恐るべき形の記憶を有している。その作品

は手を動さない間にも生長しているのである。この人は恐るべき意志の集中力を有している。為事に掛かった刹那に、もう数時間前から為事をし続けているような態度になることが出来るのである。

ロダンは晴やかな顔つきをして、このあまたの半成の作品を見渡した。広々とした額。中ほどに節のあるような鼻。白いたつぶりある髯が腮の周囲に簇がっている。

戸をこつこつ叩く音がする。

「Entrez 《アントレエ》！」

底に力の籠った、老人らしくない声が広間の空気を波立たせた。戸を開けて這入って来たのは、ユダヤ教徒かと思われるような、

褐<sup>かつしよく</sup>色の髪の濃い、三十代の瘦<sup>や</sup>せた男である。

お約束の Mademoiselle 《マドモアセユ》 Hanako 《ハナコ》を連れて来たと言った。

ロダンはこの入って来た男を見た時も、その詞<sup>ことば</sup>を聞いた時も、別に顔色をも動かさなかった。

いつか Kambodscha 《カンボヂヤ》の酋長<sup>ほそて</sup>がパリに滞在していた頃、それが連れて来ていた踊子を見て、繊<sup>ほそ</sup>く長い手足の、しなやかな運動に、人を迷わせるような、一種の趣のあるのを感じたことがある。その時急いで取った dessins 《デッサン》が今も残っているのである。そういう風に、どの人種にも美しいところがある。それを見つける人の目次第で美しいところがあると信じて

いるロダンは、この間から花子という日本の女が [variete]

《ワリエテエ》に出ているということを聞いて、それを連れて来て見せてくれるように、伝つてを求めて、花子を買って出している男に頼んでおいたのである。

今来たのはその興行師である。 [Impresario] 《アンプレサリオ》である。

「こつちへ這入らせて下さい」とロダンはいった。椅子をも指ささないのは、その暇いとまがないからばかりではない。

「通訳をする人が一しよに来ていますが。」機嫌きげんを伺うかがうように云うのである。

「それは誰ですか。フランス人ですか。」

「いいえ。日本人です。L'Institut 《ランスチチュウ》 Pasteur 《パストヨオル》で為事をしている学生ですが、先生の所へ呼ばれたということの花子に聞いて、望んで通訳をしに来たのです。」

「よろしい。一しよに這入らせて下さい。」

興行師は承知して出て行った。

直ぐに男女の日本人が這入つて来た。二人とも際立きわだつて小さく見える。跡あとについて這入つて戸を締める興行師も、大きい男ではないのに、二人の日本人はその男の耳までしかないのである。

ロダンの目は注意して物を視るとき、内眥めがしらに深く刻んだような皺が出来る。この時その皺が出来た。視線は学生から花子に移つて、そこにしばらく留まっている。



学生は挨拶あいさつをして、ロダンの出した、臄けんの一本一本浮いている右の手を握った。La 《ラ》 Danaïde 《ダナイイド》 や Le 《ル》 Baiser 《べゼエ》 や Le 《ル》 Penseur 《パンシヨオル》 を作った手を握った。そして名刺入から、医学士久保田某と書いた名刺を出してわたした。

ロダンは名刺を一ちよつと寸見て云った。「ランスチチュウ・パストヨオルで為事をしているのですか。」

「そうです。」

「もう長くいますか。」

「三箇月になります。」

「Avez 《アウエエ》 -vous bien ヴウ 《グマン》 [travaille'] 《トラワ

イエエ？」

学生ははつと思つた。ロダンという人が口癖のように云う詞ことばだと、兼かねて噂うわさに聞いていた、その簡単な詞が今自分に対して発せられたのである。

「Oui 《ウイ》, beaucoup 《ボウクウ》, Monsieur 《モツシユウル》」と答えると同時に、久保田はこれから生涯勉強しようと、神明に誓つたような心持がしたのである。

久保田は花子を紹介した。ロダンは花子の小さい、締まつた体を、無ぶ恰かつ好こうに結つた高島田いただきの巔たかねから、白足袋びやくに千代田草履ちよてんを穿はいた足の尖さきまで、一目に領略りやうりやくするような見方をして、小さい巖がんじような手を握つた。

久保田の心は一種の羞恥しゆうちを覚えることを禁じ得なかつた。日本の女としてロダンに紹介するには、も少し立派な女が欲しかつたと思つたのである。

そう思つたのも無理は無い。花子は別品べつぴんではないのである。日本の女優だと云つて、或時こつぜん忽然ヨオロッパの都会に現れた。

そんな女優が日本にいたかどうだか、日本人には知つたものはない。久保田も勿論もちろん知らないのである。しかもそれが別品でない。お三どんのようだと云つては、可哀そうであろう。格別荒い為事をしたことはないと見えて、手足なんぞは荒れていない。しかし十七の娘盛なのに、小間使としても少し受け取りにくい姿である。一言で評すれば、子守こもりあがり位にしか、値踏が出来兼ねるのであ

る。

意外にもロダンの顔には満足の色が見えている。健康で余り安逸を貪むさぼったことの無い花子の、いささかの脂肪をも貯えていない、薄い皮膚の底に、適度の労働によつて好く発育した、緊張力のある筋肉が、額と腮あごの詰まった、短い顔、あらわに見えている頸くび、手袋をしない手と腕に躍動しているのが、ロダンには氣に入つたのである。

ロダンの差し伸べた手を、もう大分だいぶヨオロツパ慣れている花子は、愛相の好い微笑を顔に見せて握つた。

ロダンは二人に椅子を侷すすめた。そして興行師に、「少し応接所で待っていて下さい」と云つた。

興行師の出で行った跡で、二人は腰を掛けた。

ロダンは久保田の前に烟草たばこの箱を開けて出しながら、花子に、「マドモアセユの故郷には山がありますか、海がありますか」と云った。

花子はこんな世渡よわたりをする女の常として、いつも人に問われるときに話す、きまつた、[stereotype] 《スシレオタイプ》な身の上話がある。丁度ちやうどあのZola 《ゾラ》の Lourdes 《ルウルド》で、汽車の中に乗り込んでいて、足の創きずの直った靈験を話す小娘の話のようなものである。度々同じ事を話すので、次第に修行が詰んで、routine 《ルウチイヌ》のある小説家の書く文章のようになっている。ロダンの不用意な問は幸さいわいにもこの腹藁ふっこうを破つ

てしまった。

「山は遠うございます。海はじきそばにございます。」

答はロダンの気に入った。

「度々舟に乗りましたか。」

「乗りました。」

「自分で漕こぎましたか。」

「まだ小さかったから、自分で漕いだことはございません。父が漕こぎました。」

ロダンの空想には画が浮かんだ。そしてしばらく黙っていた。

ロダンは黙る人である。

ロダンは何の過渡もなしに、久保田にこう云った。「マドモア

セユはわたしの職業を知っているでしょう。着物を脱ぐでしょうか。」

久保田はしばらく考えた。外の人のためになら、同国の女を裸体にする取次は無論しない。しかしロダンがためには厭いとわない。それは何も考えることを要せない。ただ花子がどう云うだろうかと思つたのである。

「とにかく話して見ましょう。」

「どうぞ。」

久保田は花子にこう云つた。「少し先生が相談があるというのだがね。先生が世界に又とない彫ほりもの物師で、人の体を彫る人だということ、お前も知っているだろう。そこで相談があるのだ。」

「ちよつと一寸裸になつて見せては貰もらわれまいかと云つてゐるのだ。どうだろう。お前も見通る通り、先生はこんなお爺じいさんだ。もう今に七十に間もないお方だ。それにお前の見る通りの真面目まじめなお方だ。どうだろう。」

こう云つて、久保田はじつと花子の顔を見ている。はにかむか、気取るか、苦情を言うかと思うのである。

「わたしなりませんわ。」きさくに、さつぱりと答えた。

「承諾しました」と、久保田がロダンに告げた。

ロダンの顔は喜にかがやいた。そして椅子から起ち上がつて、紙とチヨオクとを出して、卓の上に置きながら、久保田に言った。

「ここにいますか。」



「わたくしの職業にも同じ必要に遭遇そうぐうすることはあるのです。

しかしマドモアセユのために不愉快でしょう。」

「そうですか。十五分か二十分で済みますから、あそこの書籍室へでも行っていて下さい。葉巻でもつけて。」ロダンは一方の戸口を指ざした。

「十五分か二十分で済むそうです」と、花子に言つて置いて、久保田は葉巻に火をつけて、教えられた戸の奥に隠れた。

\*

\*

\*

久保田の這入った、小さい一間は、相對している両側に戸口が

あつて、窓はただ一つある。その窓の前に粧飾のない卓が一つ置いてある。窓に向き合つた壁と、その両翼になつているところとに本箱がある。

久保田はしばらく立つて、本の背革せがわの文字を読んでいた。わざと揃そろえたよりは、偶然集まつたと思われる collection 《コレクション》である。ロダンほんすきは生れつき本好で、少年の時困窮して、Bruxelles 《ブリュクセル》の町をさまよつていた時から、始終本を手にしていたということである。古い汚れた本の中には、定めていろいろな記念のある本もあつて、わざわざここへも持つて来ているのだろう。

葉巻の灰が崩れそうになつたので、久保田は卓に歩み寄つて、

灰皿に灰を落した。

卓の上に置いてある本があるので、なんだろうと思つて手に取つて見た。

向うの窓の方に寄せて置いてある、古い、金縁きんぶちの本は、聖書かと思つて開けて見ると、Divina 《チキナ》 comedia 《コメヂア》のEdition 《エヂション》 de 《ド》 poche 《ポッシユ》であつた。手前の方に斜に置いてある本を取つて見ると、Beaudelaire 《ボオドレエル》が全集のうちの一巻であつた。

別に読もうという気もなしに、最初のペエジを開けて見ると、おもちやの形けいじじょうがく而上学じやうがくという論文がある。何を書いているかと思つて、ふいと読み出した。

ボオドレエルが小さいとき、なんとかいいうお嬢さんの所へ連れて行かれた。そのお嬢さんが部屋に一ぱいのおもちゃを持っていて、どれでも一つやろうと云ったという記念から書き出してある。

子供がおもちゃを持って遊んで、しばらくするときつとそれを壊こわして見ようとする。その物の背後うしろに何物があるかと思う。おもちゃが動くおもちゃだと、それを動かす衝動の元を尋ねて見たくなるのである。子供は *Physique* 《フィジック》より [Metaphysique] 《メタフィジック》に之ゆのである。理学より形而上学に之ゆのである。

僅わずか四五ペエジの文章なので、面白さに釣られてとうとう読んでしまった。

その時戸をこつこつ叩く音がして、戸を開いた。ロダンが白しら髪が頭あたまをのぞけた。

「許して下さい。退屈したでしょう。」

「いいえ、ボオドレエルを読んできました」と云いながら、久保田は為事場に出て来た。

花子はもうちゃんと支度をしている。

卓の上には *esquisses* 《エスキス》が二枚出来ている。

「ボオドレエルの何を読みましたか。」

「おもちゃの形而上学です。」

「人の体も形が形として面白いのではありません。霊の鏡です。

形の上に透すき徹とおって見える内の焰ほのおが面白いのです。」

久保田が遠慮げにエスキスを見ると、ロダンあらは云った。「粗いから分かりますまい。」

しばらくして又云った。「マドモアセユは実に美しい体を持っています。脂肪は少しもない。筋肉は一つ一つ浮いている。Foxieriers 《フォックステリエエ》の筋肉のようです。臁けんがしっかりと

していて太いので、関節の大きさが手足の大きと同じになってい

ます。足一本でいつまでも立っていて、も一つの足を直角に伸ばし

ていられる位、丈夫なのです。丁度地に根を深く卸おろしている木の

ようなのですね。肩と腰の濶ひろい地中海の type 《チイプ》とも違

う。腰ばかり濶くて、肩の狭い北ヨオロッパのチイプとも違う。

強さの美ですね。」







# 青空文庫情報

底本：「カラー版日本文学全集」 森鷗外「河出書房新社

1969（昭和44）年3月30日初版発行

初出：「三田文学」

1910（明治43）年7月

入力：土屋隆

校正：川山隆

2008年4月8日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

# 花子

森鷗外

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>